

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2020.01.No269

1月号

目次

会長新年挨拶「新しい年に臨んで」……1
ヘリテージ・マネージャー報告……2
ブロック会報告……4
青年・女性の怒……5 [No.94 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]
Coffee Break……6
information……7
道士会の動き……8

URL <http://www.h-ab.com/>



新しい年に臨んで

一般社団法人北海道建築士会 会長 高野 壽世

明けましておめでとうございます。皆様には、ご家族の方々と一緒に、清々しい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年9月21日、爽やかな風が吹きわたる秋空のもと、函館アリーナをメイン会場として、**第62回建築士会全国大会北海道大会**が開催されました。記憶に新しいところでは、平成19年、帯広市において第50回建築士会全国大会北海道大会が開催されましたので、本会にとって12年ぶりとなる全国大会でありました。本会の過去の開催実績から考えますと、全国大会の準備は手慣れたものはずであります。全国大会の内容も年々見直され、経験を積んだ本会役員も交代していくなか、本部と函館支部を中心として実行委員会を立ち上げ、一から準備を進めてまいりました。大会当日は各支部から応援にかけつけた多数の会員のお手伝いのおかげで、参加された多くの方々から賞賛をいただいた全国大会となりました。改めまして、実行委員会をはじめ大会運営に携わった皆様に心からお礼を申し上げます。

昨年、全道大会は全国大会北海道大会開催のためお休みでありました。今年、大会テーマを「Lat.44°N ともに語ろう北海道（フルサト）の未来」、サブテーマを「2020 建築士はなにができるだろうか」と定め、網走支部にとって26年ぶりとなる、**第44回全道大会網走大会**が開催されます。9月4日青年サミット、5日分科会・式典・基調講演・交流会の予定で、いま着々と準備を進めております。どうぞ多くの皆様が足をお運びくださいますようお願いいたします。

本会は、平成25年1月4日、社団法人から一般社団法人に移行し、平成29年度の公益目的支出計画の完了をもって、名実ともに新法人移行に関する手続

きをすべて完了したところであります。一昨年、この節目を捉えて、「本会のありかた検討会議」を設置し、本会の抱える様々な課題の抽出、検証を行うとともに、この先10～20年を見据えた本会の進むべき道、姿について検討をいたしました。このことについて、昨年5月に「本会のあるべき姿」として答申があり、その内容は会誌及びHPで公表されたところであります。その中で喫緊の課題として、**現行の年会費12,000円を15,000円とする会費改正**の提案があり、昨年6月の支部長・支部事務局長会議で会費改正やむなしとの意向を確認し、8月の理事会において年会費15,000円とする会費改正案が承認されたところです。その後10月には、支部長が参集する各ブロック会で再度協議し、3月の定時総会にお諮りすることとしました。

私たちの会費は、平成8年（1996年）、年額10,200円を12,000円に改正してから23年経過し、会員の減少にともなう会費収入の減を事業収入で補って運営してまいりました。しかしながら、ここ数年は、委員会費の削減、共益費や人件費の抑制なども限界となり、さらに昨年からは消費税が10%となったことから、本部、支部ともに財政状況はますます逼迫した状況となっております。本会が支部とともに建築士資格者の団体としての社会的責務を果たすためには、しっかりとした財政基盤のもと健全な運営が必要であります。このことにより会員である建築士を支援し、会員皆様の声をしっかりと社会に発信することができるかと確信しております。

本年も、皆様と一緒に、会員増強、組織力の強化を見据え、各事業を進めてまいりますが、とりわけ会費改正に向けまして、皆様のご理解を重ねてお願い申し上げます。結びに、皆様のみましますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



令和元年ヘリテージ・マネジメント 育成講座の報告

ヘリテージマネジメント特別委員会委員 安達 あけみ (札幌支部)

令和元年の北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座は、11月23日の登録式で第5期を終了しました。

全道各地に残る地域遺産を、登録有形文化財として保全することにより街を見直し、地域遺産の掘り起こしを行う文化庁の助成金を受けての事業です。平成30年は助成金を受けることが出来ず、育成講座を中止したため1年遅れで5期生が誕生しました。

事業は（一社）北海道文化財保護協会、NPO法人歴史的な地域資産研究機構、建築士会と3者によるものです。北海道では独自に、建築士や学芸員等によるヘリテージ・マネージャー（HM）とそれ以外のヘリテージ・コーディネーター（HC）としています。昨年は初めて登録更新の年となりました。

昨年は第5期生対象の育成講座HM60時間、HCは半分の30時間を6月末から10月中旬まで土日の13日間で開催しました。これに加えて過去の受講生を含めて行うフォローアップ講習、アドバイザー講習、全国大会での函館まちあるきを行いました。

育成講座では講義を聞くだけでなく、6人程度を1班として「私の見つけた文化財」（自らが街を歩き気になった建物）を街の歴史を含めて調査研究し、「登録文化財にふさわしい建物です」とプレゼンテーションします。

フォローアップ講習は、札幌市外で行いました。

8月31日の岩見沢は、札幌からバスをチャーターしての実施でした。レールセンターの外観見学の後、郷土資料館で岩見沢教育委員会主事の杉浦章一郎氏から説明を受けました。辻村家住宅の外観を見学していた時には雷鳴が轟き、旧国兼家への移動時には記録的短時間豪雨被害で道路の冠水を目撃し、岩見沢市絵画ホール・松島正幸記念館を出た時はJRが運休と聞き、急遽懇親会を中止し札幌に戻りました。戻ってから有志による懇親会を開催した事は、言うまでもありません。

9月28、29日の増毛は、元陣屋で増毛町教育委員会の小野卓也氏からの説明を受け、増毛小学校の木造校舎、巖島神社を見学しました。夜は少数精鋭の懇親会で、海の幸を堪能しました。翌日は旧商家丸一本間家、国稀酒造を含め街なみをゆっくり見学しました。帰りは増毛港の増毛秋の味まつりで、海上自衛隊のミサイル艦「わかたか」に乗艦しました。

10月26、27日の江差では、檜山支部の方にお世話になりました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。江差町役場で江差町教育委員会主管の宮原氏による

説明を受け、旧中村家住宅、旧関川家別荘、旧檜山爾志郡役所の見学をしました。翌日は「いにしえ街道」の散策など北海道の中、古い建物を利用したまちづくり見学しました。

アドバイザー講習は、札幌市内で行いました。

7月13日は、真駒内駐屯地を見学した後、HM委員の往田さんをガイド役に真駒内まちあるきを行いました。駐屯地に残っている種畜場時代の建物や進駐軍時代の建物、真駒内の歴史を感じながらのまちあるきでした。まちあるき後「まこまる」で、真駒内駅前のまちづくりを考える会の竹内正氏のお話と「改正文化財保護法とヘリテージマネージャー」と題して國學院大學教授の後藤治氏による講演をいただきました。

10月5日では、静岡県ヘリテージセンター SHCセンター長の塩見寛氏から「歴史的建造物を活かし、地域を生かす」と題して講演いただきました。講演後には、開拓の村を見学しました。

全国大会では前日20日に、全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会を開催しました。総会に先立ち参加者100名超の「函館まちあるき」を行いました。まちあるきには函館の観光ボランティアガイド「一會の会」さんに、ご協力いただきました。

HM育成講座のカリキュラム等の決定は3者による実行委員会で決定します。講師依頼などの事務手続き実行委員会の事務局である北海道文化財保護協会が担当しています。

講座実施の実働は、建築士会のHM特別委員会の5名で行っていますが、札幌以外で講習を行う際には各支部から協力を頂き実施しています。育成講座を夏場に札幌で開催している事から、遠隔支部からの受講生が少なく地元の文化財がまだまだ埋もれていると思います。ぜひ、講座にご参加ください！！



開拓の村にて歴史的建造物調査実習



講座では道庁赤レンガ庁舎を見学



増毛小学校 体育館の木造トラス



真駒内駐屯地にある史料館「赤レンガ」



増毛港に寄港していたミサイル艇「わかたか」



岩見沢レールセンター



江差町役場で勉強中



岩見沢では道路冠水に遭遇



旧檜山爾志郡役所庁舎



函館まちづくりセンター



江差「いにしえ街道」にて

2021年全道大会は道央で

道央ブロック会

統括理事 長谷川 敏文 (札幌支部)



11月7日、令和元年第2回目の道央ブロック会を事務局共用会議室において開催しました。

来年、令和3(2021)年の全道大会は空知支部での開催が決定しました。日程や大会テーマ、開催場所等は未定ですが、残り1年半余の短い期間に、道央ブロックを代表する大会となるよう、できる限りの叡智と尽力を結集させていただきます。全道大会の開催支部においては、近隣支部と親交を深める機会であると同時に、同業者や関係者への周知活動に伴い、新規の会員勧誘の絶好のタイミングでもあるので、大いに期待したいところです。

令和2年は、道士会実行委員会委員の改選期に当たるため、道央ブロック枠からの推薦者の選出を各支部に要請しました。各支部の新規入会者が少なく、現会員の高齢化に手を拱き、会の存続に不可欠な新陳代謝ができていない状況下では、意欲ある人材の掘り起こしさえできず、新たな実行委員を送り出すことができないのが実情です。次の世代の方たちには、思いっきり目先を変えて、大きな守り「組織ありき(形)」ではなく、小さな攻め「人ありき(内容)」からリ・スタートしてもらおうと、小規模でも面白い会になっていくとは思っています。

北海道建築士会の新しい時代の建築士の有り方を考える

道南ブロック会

統括理事 山内 一男 (函館支部)



令和元年10月11日、苫小牧にて第2回道南ブロック会議が開催され、高野会長から全国大会北海道大会開催協力お礼と、違反建築問題から工事監理ガイドライン通報窓口設置報告から会議が開始した。

来年、役員と実行委員の改選期に当たることから道南ブロック会としての人員の推薦と、理事候補2名の推薦を、11月20日迄に報告することとなった。

新しい時代を迎え、北海道建築士会のあり方の理事会の承認事項の一つ、会費値上げについて話し合われた。全国的に会員減少が進む中、建築士会員にとって会のあり方を考える、会員の為の会として意見が交わされた。全道大会や地域活動の縮小によって、会を維持する会員の声があるが、それは新しい時代の多様な建築を取り巻く社会の状況に、建築士は取り残される。活動することにより建築士の姿が社会に見えるわけで、消費者・生活者の期待に応えられないのではないかと考えてしまう。

その様な意味から、地域社会での活動の為に士会会員の会費を有効に使わなければならない。会費の値上げはその為にあることを、もう一度支部活動の中で新しい取組を進めなければならない。

建築士受験制度改正や省エネルギー改正、民法改正等の研鑽には、建築士と会の存在が必要なのだが。

各支部の活動動向について

道北ブロック会

統括理事 中澤 光夫 (旭川支部)



会誌「北海道建築士」第269号の発刊に当たり道北ブロック各支部の活動状況をお知らせします。10月17日上富良野支部で高野会長出席のもと、第2回道北ブロック会議を開催しました。残念ながら3支部の出席がかなわず、5支部での活発な意見交換等が行われました。各支部においては、毎年、同様の内容で活動が行われています。今回のブロック会議において、「北海道建築士会ありかた検討会議の答申」内容を中心に論議を行いました。一つ目は、「会員増強の取組み」です。どの支部においても永遠の課題。建築士法改正で令和2年3月1日施行の建築士試験の受験資格が緩和されることから、今後、3年から5年スパンで若年世代の免許取得者が増え、会員増強につながることに期待できるのではないかと。二つ目は、現状、会員数極少の支部は、会員増強が見込めず、事業活動の継続維持も困難となっていくことが予想され、ブロック内の隣接する地域での活動等を共有し、双方の支部統合の話題も一部上がりました。

色々様々な意見がある中、最終的には会員数の増減にかかわらず、今後、「北海道建築士会ありかた検討会議の答申」に示されている、本部総会代議員制や会費の値上げ等の内容に、道北ブロック会においても、理解を得ることに確認し合い、第2回道北ブロック会議を散会としました。

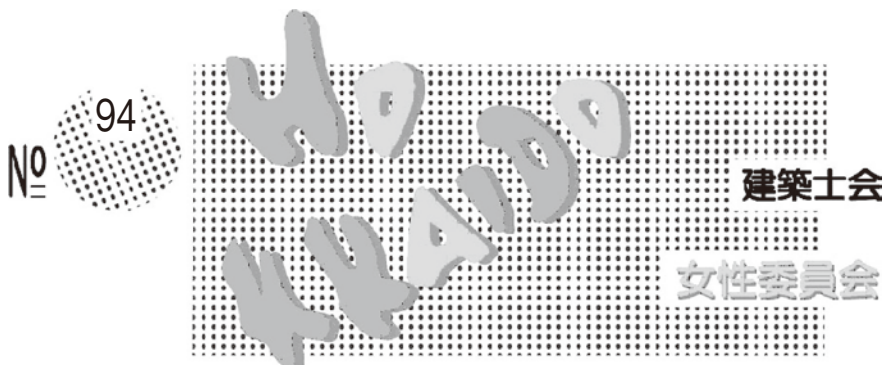
第2回ブロック会議報告

道東ブロック会

統括理事 庵 敏幸 (北見支部)



令和元年第2回ブロック会議はブロック内最北端の紋別市にて稲葉支部長のご協力にて開催されました。開催にあたり高野会長より9月に函館で行われた全国大会がとても盛況だったことで参加や手伝いをしていただいた会員の皆様に感謝のお礼がありました。来年は網走で全道大会が開催されますのでより多くの会員の方が参加できるように、各支部の協力をお願いしたいと思います。今回の議題で今後の北海道建築士会のあり方として本部では検討会議を重ねてまいりました。現状の問題点や今後の改善点などの各支部から様々のご意見をいただき、今後どうあるべきか優先順位を決めてまい進していくところでもあります。まずは会員減少による会費収入の減は今後の活動を行っていくための最大の課題となり、また今後も会員増強に取り組むには、活動維持のための会費を値上げすることにいたしました。会費の値上げに関しては会員の皆様に丁寧な説明が必要となりますので今後の会誌にて説明させていただきますと思います。今回のブロック会議におきましては、各支部の皆様へのお願いや協力などが多くなってまいりましたが、現状をお伝えし、会議を終わらせて頂きました。



**女性建築士会の集い in 札幌
～防災ゲーム『クロスロード』
体験会～に参加して**

須藤志津子 (釧路支部)

今年度の女性建築士の集いは、北海道防災士会代表 前田博文氏をお招きし、防災ゲーム『クロスロード』を通じて、防災の意識を深めようという企画になりました。

まず、講師の北海道防災士会代表 前田博文氏から『防災士東京都は・・・?』のテーマでスライドを見ながらのお話しをお聞きしました。



前田博文氏の講演



その後、1チーム5人のA～Fチームに分かれて『クロスロード』を行いました。防災ゲーム『クロスロード』とは、1995年の阪神・淡路大震災の際、災害対応にあたった神戸市職員の「災害対応のジレンマ」をもとに作成されたゲームです。

「クロスロード」(Crossroad)

とは、「岐路」、「分かれ道」のことで、そこから転じて、重要な決断、判断のしどころを意味します。

「こちらを立てればあちらが立たず」-を、素材として、参加者が自分自身で二者択一の設問に判断を下す事を通じて、多様な価値観・多様な視点に気付き、相互に意見を交わす事を狙いとしています。

実際に『クロスロード』を行ってみると、非常に悩ましい設問ばかりでした。例えば、

- ①避難所で子供がお腹が空いたと言う。持ち出したお菓子を子供に与えるか？
 - ②避難所に3,000人いるが、食料が2,000人分しか無い。配るか？どうするか？
 - ③避難所で風邪が大流行、自宅は半壊。家に帰るか？
 - ④避難所に避難する時に家族同然の飼い犬を連れて行くか？
- 等の設問が7問有り、Yes、Noで答えるゲームでした。



クロスロードゲーム

各チームで同じ答えの多い人が、ポイントを貰い、一番ポイントが多かった人には前田代表からのプレゼントというおまけ付きに盛り上がり、一番となった私は手回しが出来るラジオ兼懐中電灯兼充電器を頂きました。

クロスロードゲームの後は、防災食・防災グッズの紹介が在りました。防災食の紹介の際、「防災食を好きなもの、美味しいものにして避難生活のストレスを低減させる」というお話が印象的でした。



防災食・防災グッズの紹介

お話の後に、防災食の試食を行いました。最近の防災食は本当に美味しく、これなら避難生活中の食に関するストレスは軽減されそうだと感じました。



とても美味しい防災食

又防災グッズ一式を入れるリュックは、市販の防災品で無くても家族各自が必要最低限の物を詰められる使いやすいもので良いと思いました。

一番大事な事は、まず命を守る事。それを自分にも家族にも徹底する事が重要だと感じました。

留萌支部

留萌支部近況

支部長
舩田 彰



全道各支部の建築士の皆様元気ですか？

2019年留萌支部の活動をお知らせします。

現在会員数は54名、替助会員26社、特別会員 留萌高等学校建築科1校の団体となり活動しております。

過去留萌支部会員数は120名で先輩建築士は活動しておりました。その頃の活動は留萌支部を3ブロック(留萌、羽幌、道北)に分け活動しておりました。

パークゴルフ大会、ゴルフ大会、年度総会として総会を兼ねての研

修旅行など、たくさんの事業を行っていましたが、ここ数年はチャリティビアパーティ、そして総会の事業しか開催できておりません。各会員が過去の楽しかった事業をもう一度との要望が出ており、これからの支部事業に盛り込んでいけたらと考えております。その他の事業として基準法講習会(25名程度出席)又、留萌振興局開催のよりみちの駅フェスティバルへのお手伝い(残念ながら昨年は中止)1昨年までは子供達と一緒に住宅の模型作成又、技能士会開催のカンナ掛けなどのお手伝いを含め参加しております。

そして、本年度は応急危険度判定体制の強化の為の講習会、机上訓練への参加を行い、応急建築のスキルアップを図っております。

又、青年部は留萌支部青年部長(大平)が道北ブロック青年部長として2年間活動し留萌支部青年部、全道各支部の青年部とともに建築士のお仕事体験、厚真町仮設住宅での手すりの取付けなどの事業にも参加しております。

このように数少なくなった建築士のもとなんとか活動しているのが現状です。これからの建築士の活動を考え、北海道建築士会は会費UPなども視野に入れての活動が続いていると思いますが、我々支部としても微力ながら今後も出来ることからの活動を行っていきたいと思っています。各支部建築士の皆様これからも頑張ってください。

室蘭支部

塀の中の職業訓練

事業委員
小松 憲一



室蘭支部ではと書き出すのが本来ですが、少し脱線です。

私事ですが伊達と札幌との二重生活がもう12、3年続いています。公には伊達に住所を置いて、札幌は月2回の刑務所、それに銭函に時々です。

刑務所では職業訓練施設の建築科で大工指導、一年間で建築大工技能士三級を目指します。前任の大工棟梁が高齢で引退して突如、鋸もまっすぐ挽けない怪しいのが担当するようになって足掛け5年ですが、幸い優秀な受講生に恵ま

れ、全員合格が続いています。科の最初は安全とほぼ初めて手にする大工道具の使い方、5月中頃までに継手や仕口を一通り模型を見ながら図を描き製作します。この辺りから曲尺を使った規矩術の手ほどき、朝顔箱と四方転び椅子の製作、実技課題の棒隅製作と進みます。10月頃からは彼らも余裕が出来て、自由課題を決めて製作に挑戦します。今年は神輿で、図面も書き終わり細部検討用の模型も上出来(右写真)です。彼らの腕前、手前みそかも知れませんが建築大工2級の実技課題も楽勝です。学科は過去4年の過去問に少し怪しい解説をつけて、その解説を自分なりにまとめ直してノートに書いてもらっています。

塀の中では釘やネジは使えません。仕口・継手は栓や楔を使って締める伝統構法です。土台と柱は長臍に角栓で締めますが、角栓の穴は柱を土台が引っ張るように微妙にずらして開けます。その勘所を身に付けた彼らが今度は塀の外で、大工技能者不足を解決する一助になればと願っています。



実技課題「神輿」の細部検討用模型

次代を担うアスファルト防水

無釜型アスファルト防水熱工法 バンクス BANKS工法

(一財)日本建築センターの建設技術審査証明書(建築技術) (BCJ-審査証明-175) 取得



- 公共建築工事標準仕様 A(I)-1、D(I)-1と同等以上の性能確保
- 基準耐用年数25年(露出仕様)
- 高耐久・長寿命化によるランニングコスト低減
- 臭い・煙の少ない本格派アスファルト防水
- 専用転圧工具による下地接着性の確保
- 易溶解性アスファルト使用による安定した冬季施工性
- 飛び火認定 高断熱仕様(t=225まで)の対応 (DR-1887-2)
- 各種防水下地に対応可能



バンクス
BANKS工法 30秒動画



〒060-0042 札幌市中央区大通西6-2-6 三井生命札幌大通ビル3階 田島ルーフィング(株)内

Tel 011-221-4014 Fax 011-222-3627

技術協力メーカー: **TAJIMA** 田島ルーフィング株式会社

道士会の動き

道本部の主な会議報告 (12月)

◆第4回理事会

〈開催日〉12月6日(金)

〈議題〉※議題はすべて承認済

- 1) 令和元年一般会計収支予算の流用(案)
- 2) 令和元年一般会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
- 3) 令和元年特別会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
- 4) 令和元年全国大会特別会計事業報告(10月末)及び収支決算見込
- 5) (一社)北海道建築士会会費規則の改定(案)
- 6) (一社)北海道建築士会定款の改定(案)
- 7) (一社)北海道建築士会運営規則の改定(案)
- 8) 建築士の知識及び技能を社会に明示するための制度に関する規則(専攻規則)改正(案)
- 9) 専攻建築士の認定審査に関する基準を定める規則(審査基準)の改正(案)
- 10) 専攻建築士の登録更新審査に関する基準を定める規則(更新基準)の改正(案)
- 11) (一社)北海道建築士会二級建築士及び木造建築士登録等事務取扱要領の改正(案)
- 12) 「北海道建築士会地域貢献活動基金」の運用及び助成対象事業の募集並びに決定に関する要綱の改定(案)
- 13) 令和2年定時総会
- 14) 支部財政調整積立金の取崩(案)
- 15) 令和2年一般会計事業計画及び収支予算(案)
- 16) 令和2年特別会計事業計画及び収支予算
- 17) 定款第6条に基づく会員の入会承認(案)

道本部の主な行事予定 (1月)

11日(土) 第1回青年委員会

25日(土) 二級・木造建築士免許交付式

関係機関等会議参加予定 (2月)

3日(月) 建設系CPD協議会運営委員会 (東京)
高野会長出席

CPD認定プログラム(12月認定)

◆実務に役立つ建築法規解説「第53回建築基準法講習会」

〈日程及び会場〉1月10日(金) 10:30~16:00

北海道第二水産ビル(札幌市) 他18会場

〈単位数〉4単位

〈問合せ先〉(一社)北海道建築士会

TEL 011-251-6076

首里城再建のための支援金拠出のご報告

令和元年10月31日に発生した首里城の火災において、主要な建物が全焼し、琉球王国時代から伝わる貴重な収蔵品の多くが焼けるという大規模な惨事となりました。現在、沖縄県内では幾多の機関で首里城再建のための募金活動が行われており、昨年(公社)沖縄県建築士会においても「首里城再建支援金」口座が開設され、本会としましては、12月6日開催の第4回理事会で再建に向けた支援金として10万円を拠出することとし、昨年12月に沖縄県建築士会に送金しましたので、ここにご報告いたします。

講習会のご案内 (1月開催)

※2月以降日程については本会ホームページで確認ください

建築基準法講習会

10日(金) 札幌市 22日(水) 釧路市
23日(木) 新ひだか町・旭川市 28日(火) 帯広市
29日(水) 滝川市・網走市 30日(木) 北見市

監理技術者講習

16日(木) 函館市 22日(水) 札幌市

応急危険度判定士認定講習会

23日(木) 釧路市

建築士試験「設計製図」合格者(北海道)

	実受験者	合格者	合格率
二級建築士	316名	110名	34.81%
木造建築士	2名	0名	0.00%

令和2年

(一社)北海道建築士会会員作品の募集

みなさんの手がけた建築作品を広くアピールしてみませんか。応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から4点程度を選考し9月発刊「北海道建築士No.277」に掲載します。多くの会員の応募をお待ちしています。

※応募要項など詳細は、3月発刊「北海道建築士No.271」に掲載。

北海道建築士会年間行事予定 (予定)

1月	10日~30日 第53回建築基準法講習会 25日 二級・木造建築士免許交付式	7月	予定 二級建築士学科試験 予定 一級木造建築士学科試験
2月	5日~27日 第53回建築基準法講習会 15日 一級建築士免許交付式	8月	
3月	6日 第1回理事会 19日 定時総会・第2回理事会 28日 全道青年委員会連絡会議	9月	1日 代議員選挙候補者告示 4日・5日 全道大会(網走大会) 予定 第4回理事会 予定 二級建築士設計製図試験
4月	予定 二級木造建築士試験受付 予定 一級建築士試験受付	10月	1日 代議員選挙結果報告 予定 一級木造建築士設計製図試験
5月	15日 第3回理事会 16日 青年建築士の集い	11月	14日・15日 全国大会(広島大会)
6月	6日 支部長・事務局長合同会議	12月	4日 第5回理事会

会員みなさまへ “会費改定にご理解をお願いします”

(一社)北海道建築士会 会長 高野 壽世

下記の表1及び表2のとおり、少子高齢化、建設業界の経済的縮小などにより会員数は1996年(平成8年)の8,351名から2019年(令和1年)は3,886名となり、会費収入は51%減(93,417千円から45,957千円)となっております。その間、事務所経費の削減、人件費の抑制等、様々な施策を実施してきましたが、消費税の改定もあり、この会費収入を補っている事業収入にも限界が見えてきました。

表3は1996年の収支と現行会費での2021年の想定収支を並列させました。2021年からは赤字決算となることがお分かりいただけると思います。

表4は10年後の会員数を想定した会費改定(案)であり、2021年会費からの適用に向けて2020年3月の定時総会におはかりするものです。この中で新たに設けた特別活動費は全道及びブロック会での統一事業等に当てるものとして考えております。なお、全国の建築士会の会費の平均は20,100円(年額)、会員数1,800人以上の13建築士会では20,800円(年額)となっております。

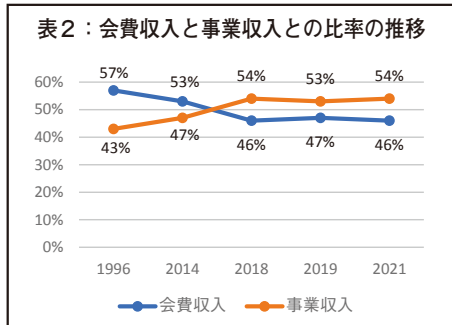
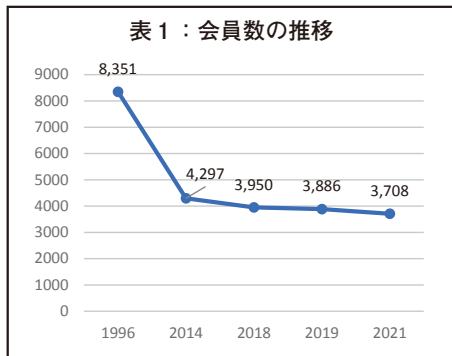


表3：1996年と2021年との収支比較

会計年		1996 (H8)	2021 (R3)	R3/H8
会費	正	12,000円	12,000円	100%
	準	9,600円	9,600円	100%
会員数	正	7,377名	3,442名	47%
	準	974名	266名	27%
	計	8,351名	3,708名	44%
職員数		5名	5名	100%
内 訳		(正)男3・女2	(正)男1・女3・契1	
収入		163,317千円	96,251千円	59%
会費収入		(93,417) 57%	(43,857) 46%	47%
事業収入		(69,900) 43%	(52,394) 54%	75%
支出		159,495千円	96,302千円	60%
事業費支出		(44,713) 28%	(16,144) 17%	36%
会誌発行費		(3,467) 2%	(4,529) 5%	131%
委員会活動費		(4,390) 3%	(4,500) 5%	103%
会議費・旅費		(5,007) 3%	(2,430) 3%	49%
人件費		(26,166) 16%	(22,400) 23%	86%
需用費		(8,410) 5%	(10,868) 11%	129%
連合会会費		(27,063) 17%	(12,903) 13%	48%
支部交付金		(36,161) 23%	(17,828) 19%	49%
その他		(4,118) 3%	(4,700) 5%	114%
収支差額		3,822千円	-51千円	-1%
消費税 税率		3%	10%	333%

現行会費

区 分	会費(年額)	内 訳		
		連合会会費	本部会費	支部会費
正会員	12,000円	3,480円	3,600円	4,920円
準会員	9,600円	3,480円	2,760円	3,360円

表4：会費改定(案)

会費(年額)	内 訳			
	連合会会費	本部会費	支部会費	特別活動費
15,000円	3,480円	4,800円	6,120円	600円
12,000円	3,480円	3,720円	4,320円	480円

連合会会費については、毎月みなさまに届く機関誌の発行はもとより、直近では告示15号の改正、建築士の受験要件等に係る建築士法の改正など、建築士に関わる対外的な活動や社会が求める先駆的な事業に使われております。

また、本部会費は、本会誌の発行、建築士の資質の向上に向けた各種講習会をはじめ、応急危険度判定業務、まちづくり活動、歴史的建造物の保存・活用、高校生に向けた住教育などを実施するとともに、支部活動への支援を行い、道民のより豊かな生活に寄与する取組みに使われております。

今後とも本会では、建築士の地位向上、技術力向上を第一義に掲げ、被災地支援などその職域に基づく社会貢献を進めてまいります。

会員みなさまには、会費改定に特段のご理解をよろしくお願いいたします。

編集後記

令和となってから初の新年、皆様いかがお過ごしでしょうか。
 今年は災害の少ない良い年が過ごせる事を願っています。
 情報委員会の担当常務理事として、「北海道建築士」に2年間携わらせていただきましたが、総会以降は担当が替わる予定です。
 2年間お世話になりました、ありがとうございます。

担当常務理事 牛田 健一(札幌支部)

情報委員会委員長/斎藤 勝哉
 副委員長/早川 陽子・森 勝利・前田 繁
 委員/柏倉 晶憲・村山 賢司
 片岡 哲二・境谷 香奈

北海道建築士 No.269号

印刷 令和元年12月/発行 令和2年1月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番